

シンポジウム

「酒の美術—日本・中国から西洋まで—」

特別展「^{てんのびろく}天之美祿 酒の美術」にあわせて、シンポジウム「酒の美術—日本・中国から西洋まで—」を開催いたします。酒は古くから文化と結びつき、洋の東西を問わず美術品とも深い関わりを有してきました。シンポジウムでは、美術における酒の表現や、酒が美術にもたらした影響について探ります。事前申し込み制ですので、奮ってお申し込み下さい。

【日時】 2021年10月10日（日）13：00～16：30

【場所】 大和文華館 講堂

【参加費】 無料 ※ただし、入館券は必要となります。

【開催趣旨】 文化・信仰・飲食と深い関連を持つ酒は、美術の歴史にも深く関わっています。大和文華館の特別展「天之美祿 酒の美術」は、古代から近世に東アジアで酒と神や人との関わりから生み出された美術の歴史をたどる内容です。これに因んで開催する本シンポジウムでは、中国や日本を中心とした東アジアから西洋まで含め、多様な役割を果たした酒にまつわり生み出されてきた造形表現や、酒を介した人・文化の交流について美術の視点から考える場とします。

【プログラム】

13：00～ 開会挨拶

13：10～13：40 発表①「酒が紡ぐ東アジアの美の世界」
瀧 朝子（大和文華館学芸部課長）

13：40～14：10 発表②「東西交流における中国・酒美術の様相」
田林 啓（白鶴美術館学芸副主任）

14：10～14：40 発表③「小田海僊《酔客図巻》について—宴会の絵画—」
仁方越 洪輝（大和文華館学芸部部員）
（休憩）

14：50～15：20 発表④「酒造家と画家の交流—辰馬悦叟と富岡鉄斎—」
安永 幸史（兵庫県立美術館学芸員）

15：20～15：50 発表⑤「キリスト教美術におけるワインの表象（仮）」
坂本 篤史（福島県立美術館主任学芸員）
（休憩）

16：00～16：30 座談会・まとめ

【申し込み方法】

参加申し込みは、往復ハガキで受け付けます。下記の記入事項と返信用の宛先をご記入の上、大和文華館シンポジウム係までお送りください。返信用ハガキにて、入場や注意事項に関する詳細をお知らせします。また、申し込み多数の場合は抽選となります。

【記入事項】

1. 参加者の氏名・人数
2. 住所
3. 電話番号

※返信用の宛先も必ずご記入ください。往復ハガキ1枚につき2名まで申し込みます。

【宛先】

〒631-0034 奈良市学園南 1-11-6
大和文華館 シンポジウム係

【締め切り】

9月24日（金）当日消印有効

【お問い合わせ】

大和文華館
〒631-0034 奈良市学園南 1-11-6
TEL:0742-45-0544